

痛いニキビは注意が必要！できてしまう原因は？

ニキビは誰にでもできるものですが、その原因は毛穴に詰まった角質や汚れに雑菌が繁殖することです。

誰でも毛穴に皮脂や汚れが溜まりますし、どんなに一生懸命洗っても、またすぐに汚れはつきましますし、皮脂も分泌されます。

それがニキビに発展するかどうかは、その人の肌バリアの強さによることになります。

肌バリアというのは、抵抗力といってもいいですが、雑菌を繁殖させないで跳ね除ける力です。

肌バリアが強いと、スキンケアを適当にしている、食生活が乱れていても不思議と肌荒れしないのです。

逆にこれが弱いと、一生懸命スキンケアしても、食生活に気を付けてもニキビが繰り返してきます。

そして、肌バリアが弱い人は痛いニキビができやすいという特徴もあります。

痛いニキビと痛くないニキビの違いとは何かというと、炎症を起こしているかどうかということになります。

炎症を起こしていない状態でもニキビなのかと思うかもしれませんが、形状が白くて小さく、固いものはまだ炎症を起こしていません。

初期段階のもので、コメドとも呼ばれていますが、これは肌のターンオーバーが衰えて角質がなかなか剥がれないためにできるものです。

この段階で上手に治療できれば、痕にならずに綺麗に治すことができます。

しかしこれが悪化してくると、赤く腫れたり膿を持ったりして、痛いニキビになってしまうのです。

こうなってしまうと、痛いので気になって触ったり潰したりしてしまいがちなのですが、これは絶対触ってはいけません。

炎症を起こしている状態の物を傷付けたり潰したりすると、周りに広がってしまうのは勿論のこと、痕が残ってしまいます。

色素沈着は必ずといっていいほど長期間残りますし、ケロイドやクレーターなど、自分では修復できない状態の痕になってしまう可能性もあります。

触ったり潰したりしなくても、綺麗に治るとは限りませんし、とにかく目立つので、どうしても髪やお化粧で隠したくなります。

しかし、髪やお化粧で刺激すると、ますます悪化する可能性が高くなりますから、どうか隠したいというのならマスクをつけておくのが無難です。

肌荒れには保湿も大変重要ですから、マスクをしておくことで保湿の助けにもなります。

痛みがあるということは炎症を起こしているということなので、抗炎症剤、抗菌剤を使用して治すことが必要になります。

市販薬では抗生剤が入っておらずあまり効き目がないので、悪化する前に皮膚科に行きましょう。